

青年漁業者グループの研究実践活動を支援

南薩地域振興局 林務水産課

【背景・目的】

山川町漁協では厳しい状況が続いている漁業経営に対する今後の取り組みや、年々寂しくなっていく漁村の活性化等について同じ悩みや考えを持つ若手漁業者5人が結集して、平成17年9月に山川町漁業協同組合青年部会が発足した。部員は漁船漁業者、魚類養殖業者とそれぞれ形態は違うが、地域に根ざした活動を目標にそれぞれが連携して各事業に取り組んでいる。

【普及の内容・特徴】

青年部活動

藻場造成

漁業生産の基盤となる漁場環境を維持する観点から平成18年度にヒジキ、ホンダワラ、ワカメの3種を対象に藻場造成を実施した。平成19年度からは更にアマモを追加した。

なお、平成21年度以降のアマモ造成については、地元小学生を対象に、秋に種蒔き、初春に繁茂状況を観察する体験教室を開催している。

魚食普及

山川中学校において水産教室を開催し、部員が持ち寄った近海カツオ、天然マダイ、養殖カンパチの3魚種について、漁法の説明、解体ショー、試食を行った他、地元小学生や一般の女性を対象に魚の捌き方教室を開催した。

体験放流

水産業への理解を深めてもらうため、地区における放流対象種であるヒラメやマダイ稚魚の体験放流を実施し、生態や旬、漁法等の説明を行った。

振興局は、これら青年部の取り組みについて、活動計画策定に係る助言、関係機関との調整及び水産技術開発センターと連携した技術面の支援を行った。

【成果・活用】

藻場造成については、青年部員を中心に山川地先に存する藻場の地域資源の維持・回復を図ることを目的とした山川地区藻場保全会を設立し、平成21年度から5年間、環境・生態系保全活動支援事業を導入してモニタリングと母藻設置や海藻投入などの保全活動を実施し、22年度は「全国アマモサミット2010 in 鹿児島」を主催して「魚の産卵場所や稚魚の生息域として貴重なアマモ場（藻場）について考える」機会を提供し、併せて全国に地元の活動の情報発信を行った。

【その他】

魚食普及と体験教室については、生徒たちの「山川でこんなにおいしい魚が水揚げされることを知らなかった」といった反響を受け、さらなる地産地消の推進を目指して活動を継続する予定である。



マットによるアマモ造成



地元小学生によるアマモ種



アマモ繁茂状況観察



アマモ場で地曳き網（生息生物の調査）



魚の捌き方教室



魚の生態，漁法等の説明



アマサミットの新聞記事